

たの
きは
生え
ては
父
女
あ
る
か

**Salon
De
Harem
Vol.004**



Daizo Imabayashi

竹
合
は
と
は
な
い

い
い
あ
な
い



また、ゆうじは

西女うんーとばっかしでー

地球とか、太陽とか、

コンドロマダとか、宇宙人とか、

宇宙にとっては西女なのだろうかと。

宇宙がなぐもなぐ直ぐ暗闇だと

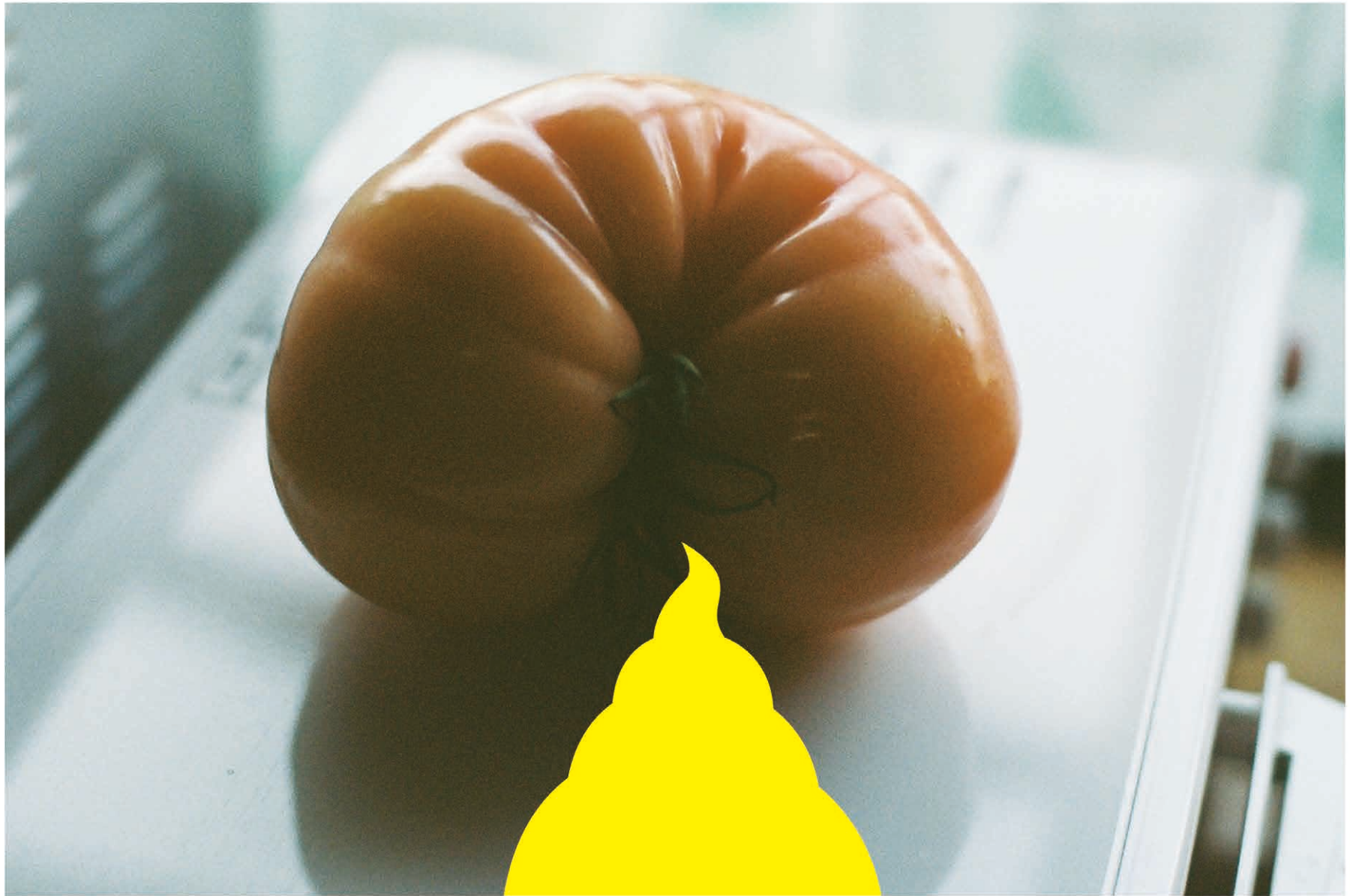
不都合だという理由が見つかると

さーか、おせーとて西女は西女、西女は西女、

西女は西女、西女は西女、西女は西女、

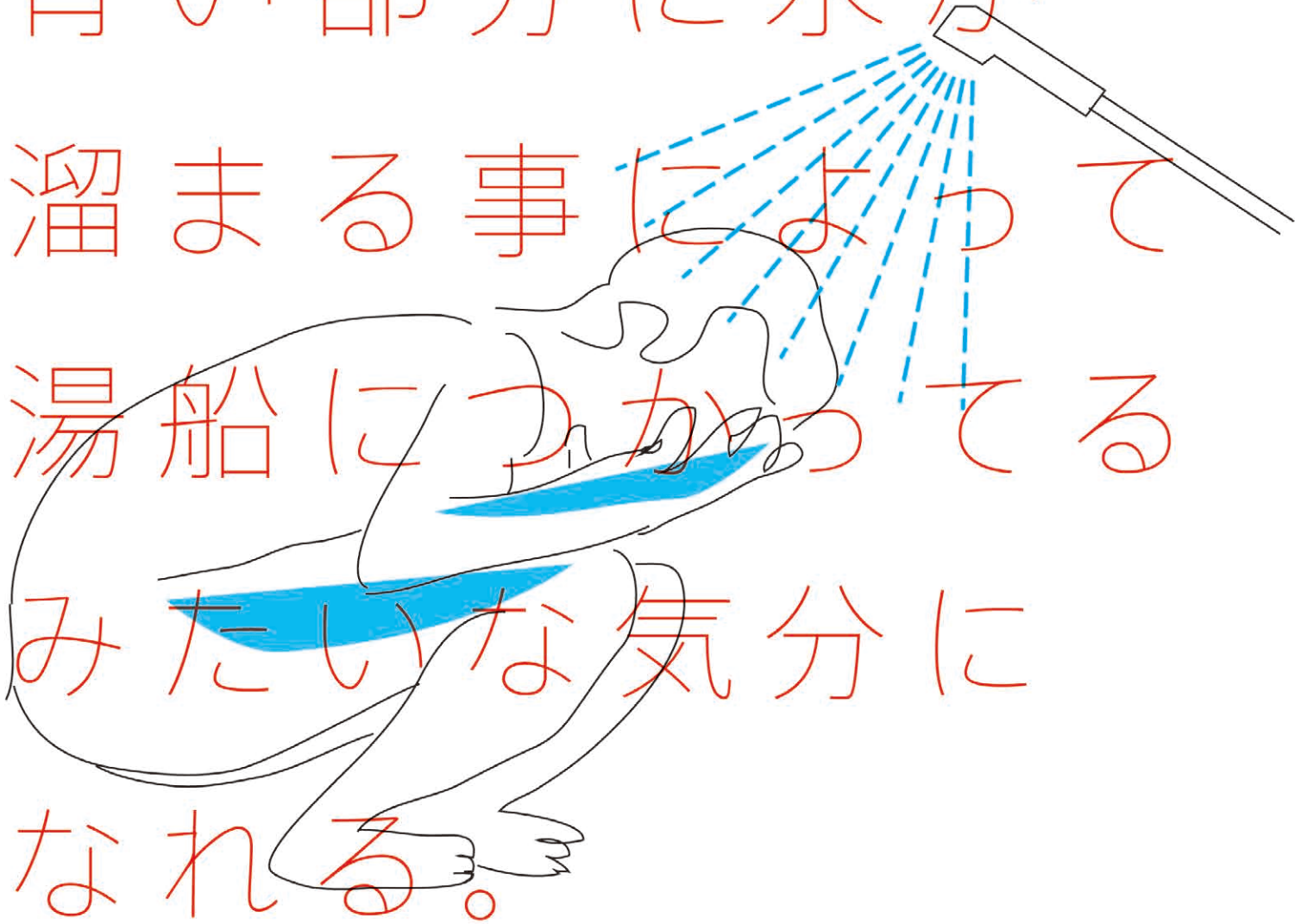
西女は西女、西女は西女、

西女は西女、西女は西女、



Daizo Imabayashi

青い部分に水が
溜まる事によって
湯船につかっている
みたいな気分にな
れる。



鈴木常吉と私。

本を正せば、高田渡である。

いや、もつと本を正せば沖縄の大工哲弘であり、山之口獺である。

大阪から福岡に転勤する数年前だったと思うので

2000年頃かその少し前、沖縄民謡を聴きまくっていた私は一枚のアルバムと出会った。
大工哲弘さんの「ジンターナシヨナル」。

八重山民謡の大家が日本のジンタや労働歌をモチーフに作ったアルバムだ。
その中の一曲に「生活の柄」があった。

「おや？これは山之口獺さんの詩で高田渡さんが歌っていた曲では？」

数年後、大工さんのライブに行ったとき

「獺 詩人・山之口獺をうたう」というCDを見つけた。

これは沖縄出身の詩人、山之口獺さんの詩に、

高田渡さんや佐渡山豊さん達がメロディーをつけた歌を、

いろんな人が歌うという企画CD。

渡さん、佐渡山豊さんはもちろん、石垣勝治さん、ふちがみとふなとさん、

嘉手苺林次さん、大島保克さん、内田勘太郎さんなど、

沖縄の、内地の、錚々たるメンバーが参加している。

もちろん、大工さんもソロでも参加し

ラストを渡さんと「生活の柄」で締めくくっている。

そのCDは福岡県西方沖地震や数度の引越でケースがボロボロになった今も、
私の愛聴版だ。

その中に「つれれこ社中」という風変わりな名前のグループがあり

獺さんの「たぬき」という詩にメンバーがメロディーをつけて歌っていた。

演奏も奇妙で、三味線とアコーディオンと太鼓の哀調を帯びた

大正や昭和を思わせる演奏なのだが、

それだけではなく、何かを企んでいるかのような確信犯的なふてぶてしさを感じさせた。

早速「雲」というCDを購入した。

まずネットに載ってた推薦文にやられた。

「高田渡、早川義夫、忌野清志郎ら、反骨の音楽家の絶賛を浴びる・・・」なんじゃそりや？
聴くとますます「なんじゃそりや？」

巡回の肉屋の歌、野菜の無駄な部分を捨てずに料理にする歌、
井伏鱒二の訳した漢詩にメロディーをつけて・・・。

昭和歌謡、小唄、諧謔などを感じさせながら、やはり虎視眈々と何かを狙ってる風情。
そこらのパンクロックより、精神的にはよっぽどパンクな、いやパンクすら通過して、
一周回ってきたかのような得体の知れない音楽があった。
一発でやられた。

メンバーのことを検索しまくり、鈴木常吉さんに辿り着いた。

「元セメントミキサーズのメンバー」な、なに〜！

イカ天最年長バンドとして話題になり、ブレイブ・コンボのカール・フィンチの
プロデュースで「笑う身体」ってCD出したあのグループか！

イカ天は関西ではオンエアしてなかったが、ブレイブ・コンボが好きだった私は、
そのCDを持っていた。正体もよく知らないままへビロテしていた。

なんかいろんなことが繋がって、ひとつにまとまった気がして

当時鈴木常吉さんがやっていた掲示板に書き込んだ。

「福岡在住ですが、つれれこ社中を聞いて・・・」

その頃、鈴木さんは「つれれこ社中」を解散されて、ソロ活動を始めておられたと思う。

・・・数週間が経ち、その間、誰も掲示板に書き込まず、鈴木さんからの返事が掲示板に載る。

「それはどうも・・・」

・・・私も返事に気付かず数週間、

「九州に来られる予定はないのですか」

・・・また誰も書き込まず数週間、

「行きたいのですが、今のところ予定は・・・」。

なんだか誰も見てない公開交換日記のような状態が半年くらい続いた。

鈴木さんはその頃、浅草の「なってるハウス」って箱を中心に活動されていた。

当時、私の師匠であらせられる「きむらけんじ」さんが浅草に住んでいたので

「一度見に行ってくれないか？」と頼んだ。

「行ってきたで」「どうでした？」「ステージで酔っ払ってたで」。

しばらくして、私がサロン・ド・ハレムの主、手島氏と東京に行く機会ができた。なんだか、お上りさんみたいだが、鈴木さんと数寄屋橋の交番の前で待ち合わせした。しかし、鈴木さんと直接会ったことがなかったのもので、

きむらけんじさんにも来てもらった。

かくして「全員を知ってる奴は誰もいない」のに「何だか同じ匂いのしそう」な4人が東京のど真ん中で出会うこととなった。

銀座とは思えない安居酒屋（たぶん三州屋）で、初めてとは思えない4人が、次々とダメ人間ぶりを披露する。

手島氏は後に「悲しいよな〜人間て」という鈴木さんの言葉が「頭からこびりついて離れなかった」と、証言することとなる。

その後、数年は「誰も見てない公開交換日記状態」が続く。

そして、私が大阪に帰った翌年の2006年、

鈴木さんのファースト・ソロアルバム「ぜいご」が発売される。

すかさず買った私は、聴いた途端に「このCDを棺桶に入れてもらおう」と思ったことを覚えている。

圧倒的な悲しみ、行き場のない孤独、しかし、それを一人で受け止め、言い訳の言葉ひとつ持たず、やり過ぎ生きていく男の背中。

それは悲しく寂しいのだが、どこか崇高で、諦観にも似た、

此岸と彼岸の間をさまようような光景に思えた。

つれれこ社中のときにあった世の中を斜めに見るかのような視点は消え、ひたすら自分の中に入ってゆき、悲しくなるまでに自分を見つめ、

その結果、悲しくなるまでに自分をさらけ出したアルバムだった。

こんなふうに自分と対峙している音楽には、出会ったことがない。

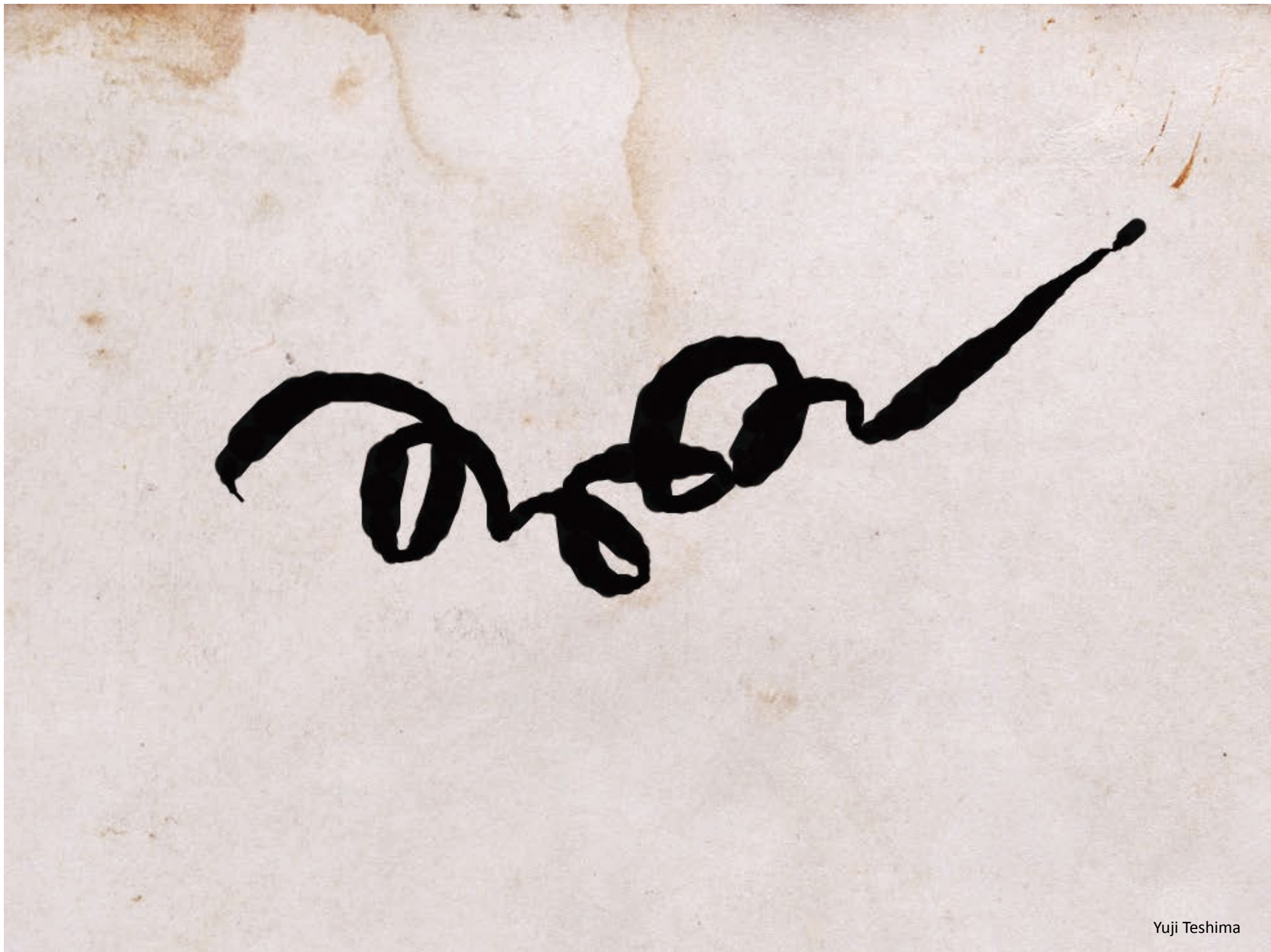
しばらくして、「ぜいご」の発売記念ツアー（いわゆるレコ発ツアー）で、鈴木さんが京都の「まほろば」というお店でライブをやることになった。

数年ぶりにあった鈴木さんは、覚えていてくれたようで、私の掲示板への投稿ネームで、

「よう！なんこつ君！」と話しかけてくれた。

初めて生で見る鈴木さんのライブは、CDとは違う印象だが、やはり自分と向き合う音楽だった。

ときには、「やはりこの人はパンク出身なんだ」と思うほど激しく、メロデューから逸脱して。



ときには、これ以上やっていたら、この人は消えてしまうのではないか、と思うほど、小さな声で。

その間を中尾勘二さんの小さくても、か細くはない存在感のあるサククスが埋めていき、関島岳郎さんの間合いを知り尽くしたチューバが下を支える。

厨房から聞こえるパチパチと弾ける天ぷらの音までが伴奏の一部になったかのような、心地よい時間であった。

と、まあ、いいお話はこのあたりまでで、この辺から、鈴木常吉さんと私の珍道中が始まる。まず、私がその「まほろば」で鈴木さんの音楽を初めて生で聴けた喜びで飲みすぎて、気がつけばタクシーに乗っていた。財布を見ると金が減ってない。どうやら食い逃げをしたようだ。

しばらくして、鈴木さんが「大阪で演りたい」というので、店を紹介した。

「チャージはいくらぐらいにします？」

「そんなのどうでもいいけど、泊めてくんない？」
「どうでもいいのか？」

泊まった次の日、ちよつと寝坊してリビングに行く、と鈴木さんはもう起きてて、冷蔵庫からビールを出して飲んでいた。

「橋本くんも飲む？」

「飲むけど、ワシのや」。

ちようど桜がきれいな頃、打ち上げで鈴木さんに

「関西で花見ってどこでするの？」と聞かれ、

「まあいろいろあるけど、関東では見られない風景って言う、と嵐山ですかね」。

その後、したたかに酔っ払った私は、家の近くでタクシーを降りたあと、

鈴木さんに見せたくなったのか、違うタクシー止めて「嵐山！」と言ってたそうだ。

ちなみに私の家は大阪市内、嵐山までは2万円くらいかかる。

ある日、私が用事でライブ行けないけど、うちには泊まるって夜、

ライブ後の打ち上げで酔っ払った鈴木さんから電話。

「橋本くんの家がなくなっちゃった」。あるはずのところまで来たんだけど、ないよ！」

「ある！ワシが今いるんだから、ある！」

鈴木さんがピアニカ前田さんと関西ツアーして、うちにピアニカさんも泊まったとき、ピアニカさんに「橋本くん、酔っ払うとおもしろいぞ」と言ってたらしい。

が、私はその日、体調が悪く、あまり飲まずに早めに寝た。

次の日、鈴木さんに怒られた。

「橋本くん酔っ払わないからピー前（ピアニカ前田さんのこと）に

「嘘つくな」って言われたじゃないかよ」

泥酔して怒られたことは何度もあるが、泥酔しなくて怒られたのは生まれて初めてだった。

鈴木さんのおかげで、うちにはいろんなミュージシャンが来てくれる。

ピアニカさんの他にも、桜井芳樹さん、関島岳郎さん、泉邦宏さん、

泊の武村さんに笹山鳩さん（漫画家の山田参助さんのミュージシャンネーム）、

良元優作さんに、井上智恵さん、松井文ちゃん。

AZUMIちゃんには野菜炒めを作ってもらった。

いつの間にか、私は鈴木さんが作った個人レーベル「しゃぼん玉レコード」の大阪支社長ということになっていた。

給料はもちろんない。持ち出しはもちろんある。

一人で犠牲になるのは嫌なので、手島氏を「九州支社長」に任命しているのだが、かたくなに拒み「九州支社長『代理』」を名乗っているのはなぜなのか。

潔くないと思う。

そうこうするうちに鈴木さんは「深夜食堂」のオープニングテーマなどで、そこそこ有名になり、台湾公演や韓国公演までするようになった。

しかし相変わらずホームの「なってるハウス」では、客は10人程度らしい。

「深夜食堂」のオンエアのあとに出したセカンドアルバム「望郷」でも、

「ぜいご」の時に感じた自分を見つめる目は貫かれている。

年齢を経て、さらに研ぎ澄まされているのかもしれない。

ちなみに「望郷」のアルバムデザインは、これもまた勝手に

「しゃぼん玉レコードデザイン部長」に任命された私の同僚、田淵稔さんだ。

音楽のときの鈴木さんと、普段や飲むときの鈴木さん、
「全然違ってる」と戸惑う人も多いが、長年の付き合いで私は、なんとなくではあるが、
「全然違ってない」と思うようになってきている。

真ん中にあるものは、ひとつで、その真ん中にあるものは、私にもあるものだからこそ、
私にとって、鈴木常吉の音楽は特別なものではないか。

私が悲しくなるまで自分を見つめているか、というと、そうでもないが、

たぶん、それは、誰の心にもある、人間本来の悲しみなのではないか、と思っている。

そこを音楽にしようとする人は少ない、そして現実に音楽にできている人はさらに少ない。

鈴木常吉が誰にも似ていなく、孤高である由縁は、ここにあるのではないか、と思う。

ちなみに先日、私の誕生日のすぐあと、鈴木さんに

「苦勞して作ったんだぜ！」と言って渡されたものは

「しゃぼん玉レコード大阪支社長」の名刺であった。

めちやくちや、昭和なデザインの。

鈴木さんには「こんな嬉しくない誕生日プレゼントは初めてです。」と言ったが、

正直、少し嬉しかった。

棺桶に入れてもらうかどうかは、まだ決めてはいないが……。

文：橋本亮介

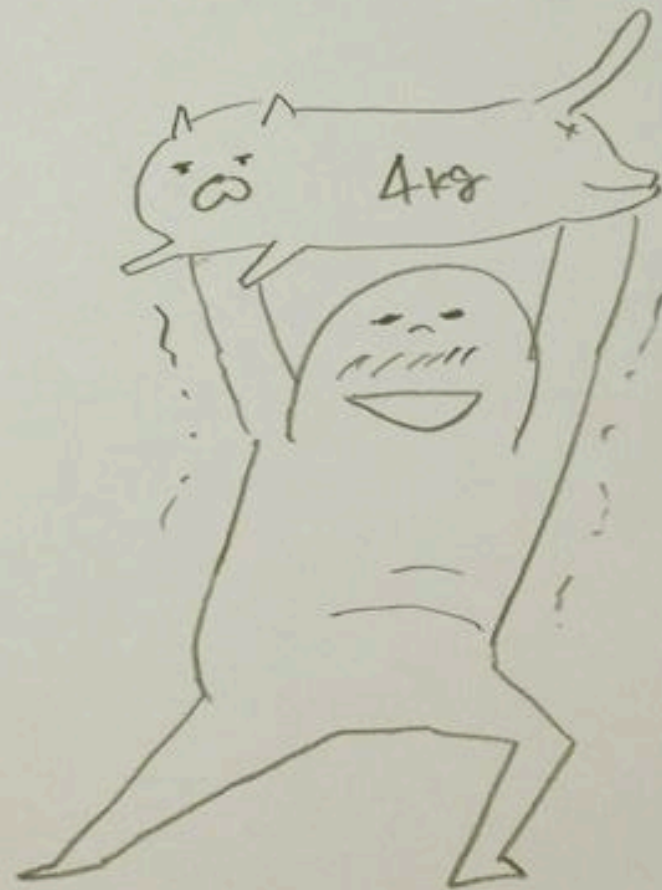




ダウニヤム
ビャンバドルジは普通。



ムンツバットグバベ「ジャルカイルより
ドルゴルスレンダグワドルジが
好き」♡



飼
猫
スト
レッ
チ





オナニ+サメデー



薄い
水

薄めても、薄めても、薄めても、
薄めても、薄めても、薄めても、
薄めても、薄めても、薄めても、
薄めても、けっして消えません。



透き通っても、透き通っても、
透き通っても、透き通っても、
透き通っても、透き通っても、
しつかりと存在しています。





色を塗るなら黄色がいいです。
空を、海を、世界中を黄色に
塗りつぶすのがいい。
地球が、丸い、菜の花畑のように
なるのです。





写真：山田圭 文：手島裕司

※さりげない感じでお読みください。

あなたのさりげない魅力を後世に残すために

山田圭がさりげなく美しい写真を撮り、

手島裕司がさりげない文章を書くプロジェクトを

さりげなく進めております。

さりげなく脱いでもいいよという女性の方、

さりげなくモデルになりませんか？

さりげなくご連絡ください。



743年 墾田永年私財法

墾田永年私財法(こんでんえいねんしざいほう)は、奈良時代中期の聖武天皇の治世に、天平15年5月27日(743年6月23日)に発布された勅(天皇の名による命令)で、墾田(自分で新しく開墾した耕地)の永年私財化を認める法令である。古くは墾田永世私有法と呼称した。荘園発生の基礎となった法令である。



バナナの断面



Daizo Imabayashi

かへい
太

ひき
返

そ
う

や

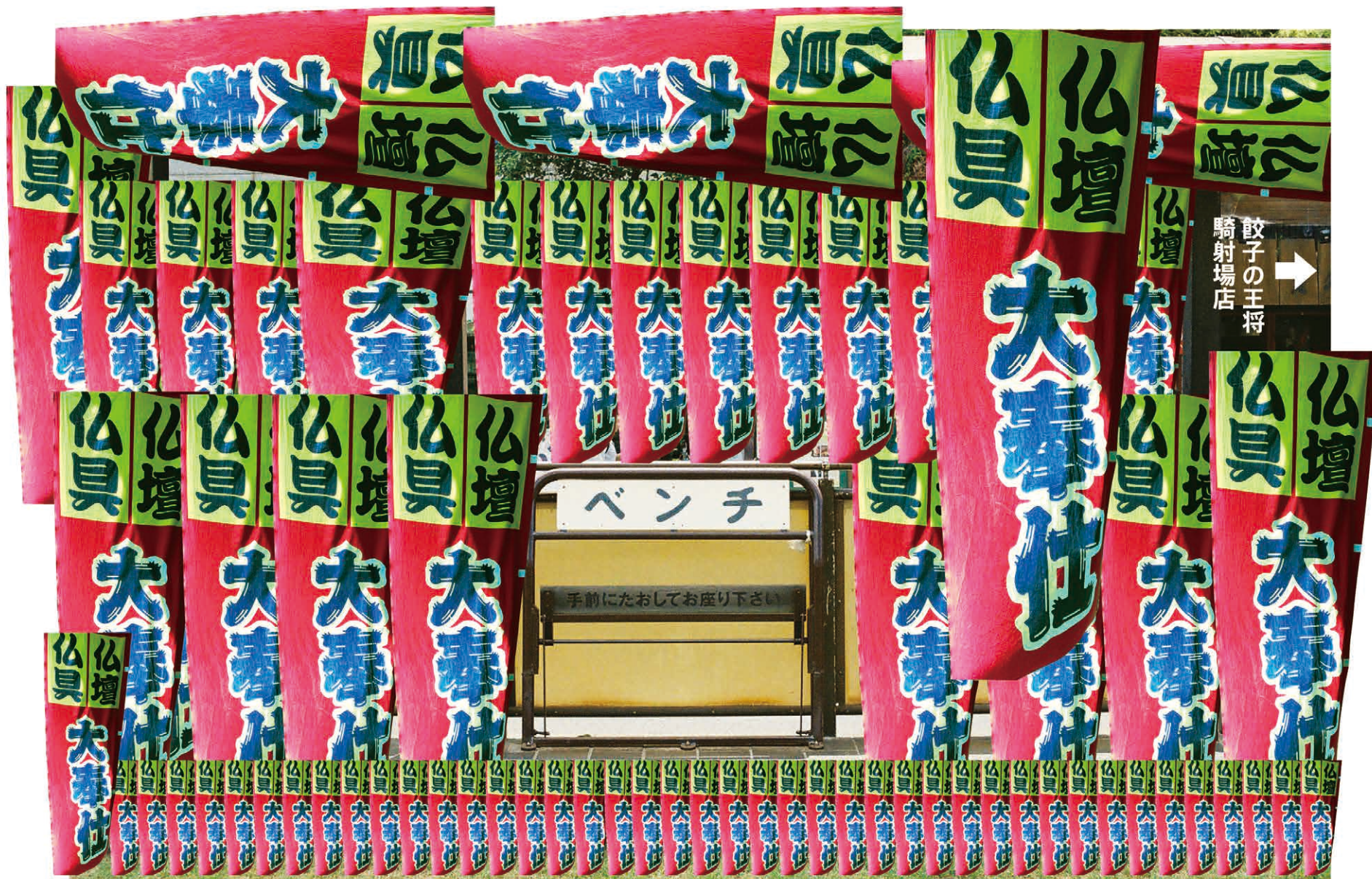


西貝うた

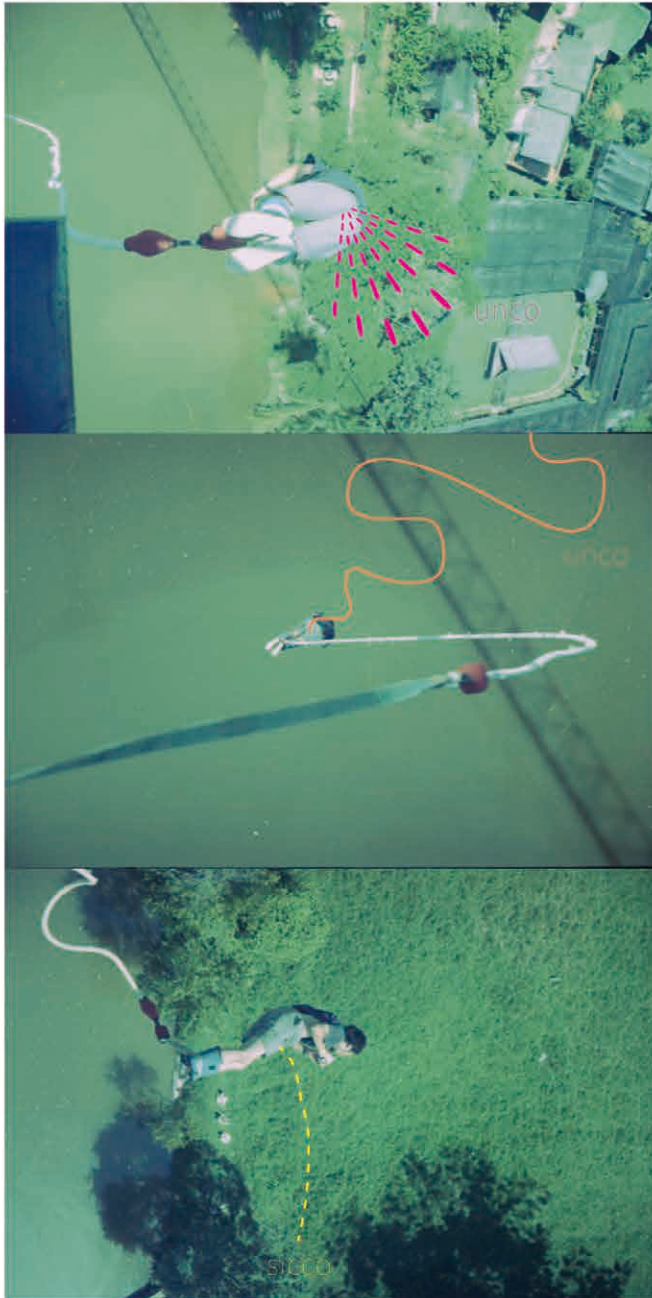
くらいい

ワ
〇
〇
四

一
一
丸







水増し

見逃したら
死ぬと思います。



ピアノカ前田 + 塚本功

二人ピラニアズ ライブ in 福岡

春吉バルCLUTCH (クラッチ)

日付: 2013年11月24日 (日)

場所: 福岡市中央区春吉2丁目4-14
ザ・博多テラス2F

時間: 18:00 open / 19:00 start

料金: 予約 ¥2,000 / Door ¥2,500

* 要1ドリンクオーダー

お問い合わせ先: Facebookイベントページ
092-724-4664 (春吉バルCLUTCH)

二人ピラニアズ×T字路's

● 11/22(金)

会場: 葉院イビサルテ

福岡市中央区葉院1-16-17

時間: 19:00 open / 20:00 start

料金: 予約 ¥2,300 / 当日 ¥2,800 (+1D)

ご予約・お問合せ: 092-715-0153

二人ピラニアズ ワンマン

● 11/23(土)

会場: 今泉ブベドソン

福岡市中央区今泉1-16-12

時間: 19:30 open / 20:30 start

料金: 予約 ¥2,000 / 当日 ¥2,500 (+1D)

ご予約・お問合せ: 092-722-0087